

平成 26 年 8 月 23 日
現 地 説 明 会 資 料

宮古市田老

あおのたききたいちいせき

青野滝北Ⅰ遺跡

～縄文時代中期の集落跡～



☆青野滝北Ⅰ遺跡の発掘調査について

遺跡名：青野滝北Ⅰ遺跡

所在地：宮古市田老字青野滝北地内

委託者：国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所

調査期間：平成 26 年 4 月 10 日～9 月 12 日（予定）

調査対象面積：3,300 ㎡

調査機関：公益財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

※調査期間には青野滝北Ⅱ遺跡（2,100 ㎡）と青野滝北Ⅲ遺跡（2,300 ㎡）も含まれません。

1. はじめに

今回の発掘調査は、青野滝北地内がさまざまな復興関連事業で生じた土砂の受け入れ場所となるために行った緊急発掘調査です。

青野滝北Ⅰ遺跡は宮古市役所田老総合事務所の北約6kmに位置しており、現在の海岸線までは約4kmの海岸段丘上にあります。遺跡の標高は約150～165mで、調査前は山林でした。

2. 青野滝北Ⅱ遺跡の調査成果

先に調査を開始した青野滝北Ⅱ遺跡(2,100㎡)からは縄文時代中期後葉(約4,000年～4,500年前)の^{たてあなじゅうきょあと}堅穴住居跡が2棟のほか、^{どこう}土坑や^{おと}陥し穴、^{あな}焼土遺構などがみつかっています。遺物は縄文土器が大コンテナ(約30×40×30cm)で4箱、石器が中コンテナ(約30×40×20cm)で1箱出土しています。土器のほとんどが縄文時代中期のものですが、縄文時代早期(約7,000年～8,000年前)の土器も数点見つかりました。しかし、この時代の遺構は見つかりませんでした。また、^{じやもんがん}蛇紋岩製の^{すいしょくひん}垂飾品が未成品を含めて3点出土しています。原料となる蛇紋岩も見つかることから、この場所で垂飾品作りが行われていた可能性があります。この蛇紋岩の産地などはこれから調べていきたいと思えます。

青野滝北Ⅱ遺跡と青野滝北Ⅰ遺跡はほぼ隣接した場所にあり、両者は一つながりの集落もしくは隣り合った集落であった可能性が考えられます。

3. 青野滝北Ⅰ遺跡で見つかった堅穴住居跡

青野滝北Ⅰ遺跡では縄文時代の堅穴住居跡が現在のところ13棟見つかっています。大きさは直径が6～7mほどで、ほぼ円形です。堅穴住居跡の多くは、いくつかの場所ごとでまとまって見つかる傾向があり、同じ場所で何回も建てかえられていたことがわかりました。出土した土器から、これらの時代は青野滝北Ⅱ遺跡と同じ縄文時代中期後葉(約4,000年～4,500年前頃)と考えられます。また、今回の調査で出てきた全ての堅穴住居跡から石で囲って火を焚いた跡(石^{いしがこいろ}囲炉)が見つかり、中には石囲炉が複数連結したものや、掘り込み部分(前庭部^{ぜんていぶ})がある「複式炉^{ふくしきろ}」を持つ堅穴住居跡もありました。

4. 青野滝北Ⅰ遺跡で見つかった主な遺物

遺物は縄文土器が大コンテナで22箱、石器が7箱出土しています。また、石棒が2

点と蛇紋岩製の垂飾品が2点見つかっています。縄文土器は竪穴住居跡から多く出土し、ほとんどが縄文時代中期後葉のものです。石器は磨石すりいしや敲石たたきいしが多く、磨製石斧ませいせきふや石匙いしさじ、石鏃せきぞくなども見つかりました。



重複して見つかった竪穴住居跡



竪穴住居跡



小型の石囲炉



複式炉

5. おわりに

これまで田老地区では大規模な発掘調査がそれほど行われなかったため、縄文時代の「ムラ」と呼べるような遺跡が見つかっていませんでした。今回の調査によって、縄文時代中期後葉という限られた期間に「ムラ」があったことがわかりました。古い竪穴住居跡の上に再び竪穴住居を造るといった行為がみられることから、この時代の当地域は住みやすい場所であったことが推測できます。

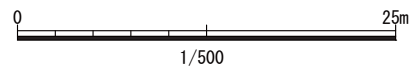
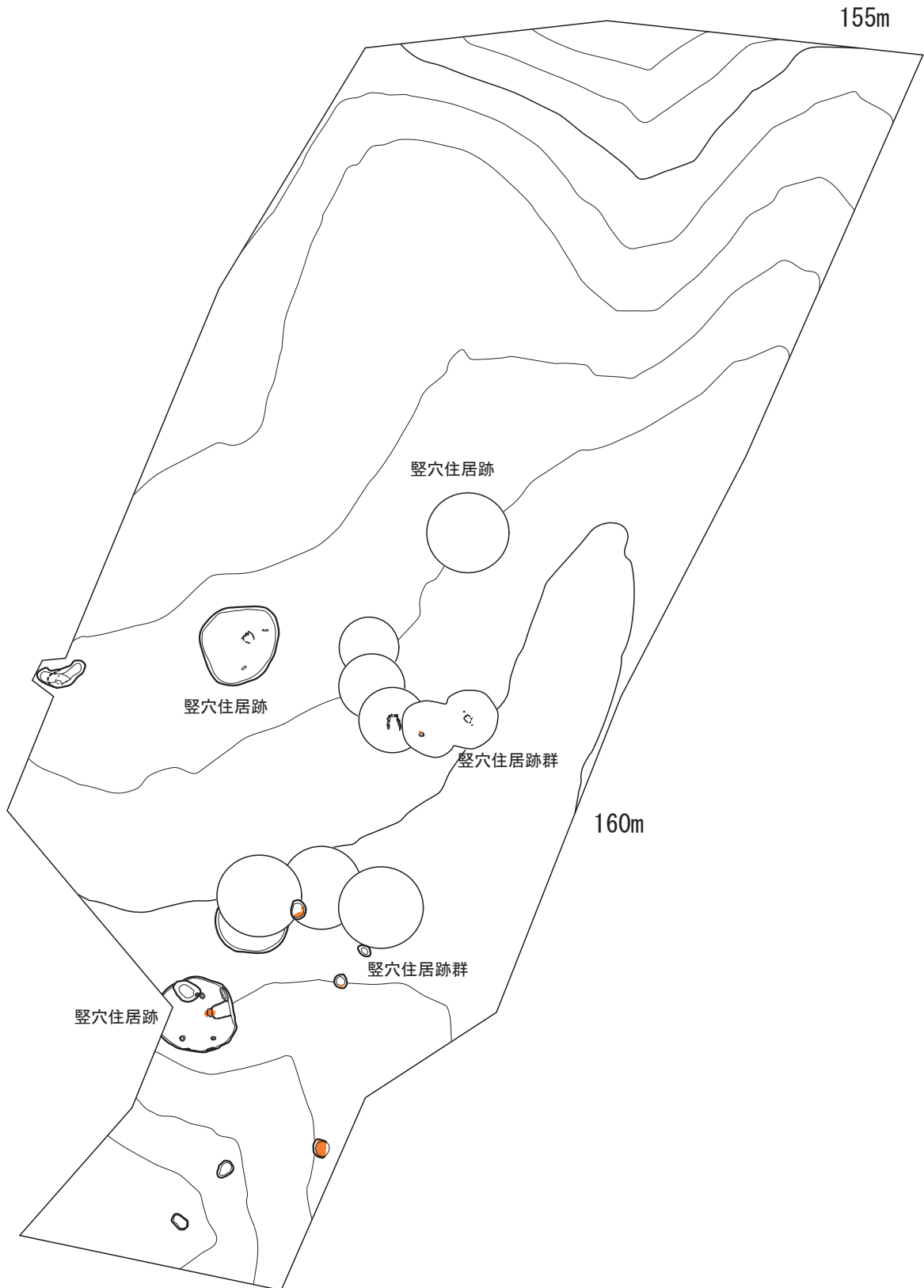
今回の調査で得られた記録や資料を整理し、地域の皆様に縄文時代の田老の生活の様子についてお伝えできるようにしたいと思います。

～発掘用語解説～

遺跡とは？ 昔の人が生活した跡が残っている場所です。

遺構とは？ 竪穴住居跡や土坑など、動かすことのできないものです。

遺物とは？ 昔の人が残した土器や石器などの道具で、動かすことのできるものです。



青野滝北 I 遺跡 遺構位置図